

テーマ	1. 内容		2. 解決の方向	3. こたわりのポイント	4. 実現に向けた方向性
	鷺沼駅周辺再編整備を踏まえ、駅周辺に求めるもの		求められる機能の内容・空間のあり方	配慮すべき点や、鷺沼駅周辺であることのメリットの活用・課題への対応	今後のプロセス、役割分担など
1. 鷺沼駅周辺の文化・交流・コミュニティ機能	①多世代の交流のためのスペース	利便性の高いところに、多様な人が集え、憩えるようなオープンスペースが必要	多くの人が集まる駅前に、広場や公園を整備する	大勢が集まれる 気軽に、誰でも使える →四季の花を楽しめるような花壇や植え込みを整備 →気軽に誰でも憩えるベンチなどを設置 →待ち合わせなどの際の目印になるものやシンボルとなるようなものを設置	
		子どもの情操教育や高齢者の生きがいづくりにもつながるように、利便性の高いところに、多様な世代が交流するためのスペースが必要	多くの人が集まる駅前に、子どもや若者、高齢者が安心して気軽に来られ、時間を過ごせるスペースをつくる	子どもと高齢者が気軽に触れ合える施設機能をもつ →雨や寒い日でも使える場所とする(たまプラのログハウスのような)	
		宮前区の“へそ”となり、地域を活性化させるため、イベントを開催できるスペースがあったらいい	利便性の高い駅前に街・商店街のイベントスペースをつくる	音楽やお芝居の鑑賞から、展示、体験型まで、さまざまなイベントができるようにする →図書館の科学の本を使ったミニ実験スペースがある	
		コミュニティーをつくるため、人の心と心をつなぐ場を提供する大規模な音楽活動のための場が利便性の高いところに必要	駅前に音楽を通じた交流・コミュニティができるスペースをつくる	定期的に確保できる大規模な音楽団体向けの練習スペースとする 文化スペースとして、ギャラリー展示スペースを併設してコンサートができる →集う場、コンサート、ミュージカルの場としてのホール →10～20歳代の駅利用者が使える施設とする(現在ないスタジオ、ネットetc.) →ピアノが置いてある練習室、リハーサル室 →横浜市にある、大ホールと小ホール、そしてリハーサル室や練習室がある施設を参考に(フィリアホールなど)	
	②市民の活動の拠点や支援を受けることのできるスペース	区民の教養を高めることにつながるように、交通の利便性が良く、通勤・買い物などのついでにも利用できる駅前に学習のための場が必要 →子ども、若者がいるまちとするため、(保護者、学校の目の届くところに)子どもや若者のためのスペースが必要 →まちの賑わいにつながる	駅前に講座・教室がひらけるスペースをつくる	講座教室のための場は多世代が参加できる →リタイヤ世代、子ども、大人に興味のある講座を用意する →サロンスペースと中高大学生が利用できる学習スペースをもつ(10代若者向けの学習・音楽練習スペースなど) →ミシン、キッチン、ピアノ、工具など機能のあるスペース	
		利便性が高く、使いやすい場所に団体同士の交流ができる機能があると活動が活性化する	駅前にオープンスペース・フリースペースをつくる	利用者同士が交流や親睦ができたり、コラボができるようなワーキングスペースとする 市民活動に関する相談や情報収集ができる機能をもつ →会議や打ち合わせなど、多目的に使用でき、印刷、製本作業等市民活動支援機能をもつ →小グループの個室を持つ	
		地域の産業、市民活動を活性化させる	地産地消を進める	気軽に集まれ、活動できる“場”であり、学べる場(食育)とする →地域の農産物の常設直売所 →料理教室ができる調理室を	

テーマ	1. 内容		2. 解決の方向	3. こたわりのポイント	4. 実現に向けた方向性
	鷺沼駅周辺再編整備を踏まえ、駅周辺に求めるもの		求められる機能の内容・空間のあり方	配慮すべき点や、鷺沼駅周辺であることのメリットの活用・課題への対応	今後のプロセス、役割分担など
1. 鷺沼駅周辺の文化・交流・コミュニティ機能	③シェアスペース・ワーキングスペース	利便性の高いところに“働く”場を設けることでまちを活性化させる	駅前に(川崎市民用の)ワーキングスペースをつくる	賑わいがうまれるワーキングスペースとする →ワーキングスペースをつくることにより、宮前区にさまざまな人材が集まるようにする →図書館のワークスペースにシェアオフィスの機能も持たせる →スモールワーキングオフィスを置けるといい(特にお客様と打ち合わせの場や“作業や打合せ”の場) →民間のシェアオフィスの活用 →ITが活用できる(wi-fi機能など)	
			駅前に同分野、他分野の人たちと情報交換する場をつくる	多様なコラボレーションが可能な場としてのワーキングスペースとする →フリーのワークスペースとする →ちょっとした会議 →お茶を飲みながらの意見交換の場など	
	④ホールや展示スペースなど、区民の交流や発表のために気軽に使えるスペース	音楽などの発表や練習ができる場が利便性の高いところにあると市民の活動を活性化できる →区内の芸術家や団体の活動を支援する	駅前に音楽の発表や練習ができる音響がしっかりしたスペースをつくる	音響を完備した多目的ホールとする →多目的に使える大空間とする(可動式) →交流のための小さなホールがある(小さくとも高機能なもの)	・(市民が自主的に運営する)
			駅前に個人やグループで活動や練習ができるスペースをつくる 駅前に近隣の芸術家や団体が気軽に発表、交流できるようなスペースをつくる	団体でも個人でも使えるスペースで、活動の規模に合ったスペースとする →30人、50人、100人などの規模から300人、500人規模まで多様な規模を用意する →スポーツもできる	
		絵画など芸術作品や市民の発表の場としての展示などのスペースが利便性の高いところにあると市民の活動を活性化できる	絵画などの展示スペース	絵画などの展示が気軽にできるようにする →小さい団体や個人でも使える、間仕切りなどがあるフレキシブルな使い方ができる	
	⑤現在の図書館が担っている機能や新たな図書館の機能	大人と子どもで機能をわけることが必要	世代別のニーズに合わせた図書館機能を整備する	大人も子どもも居心地が良い図書館機能とする →大人と子どものスペースを分ける →子どもには、読み聞かせ、お話し会等ゆっくり時間を気にせず過ごせる場所とする	
		居心地の良さが必要	コミュニティの中心となる図書館となる	お茶を飲みながら本を読むなど、豊かな時間を過ごせる →場とともにソフト(運営)を提供	・(民間活力の活用)
		集う・活動する場が必要	学習ができ、ワーキングスペース的な機能を付加	図書館に学習スペース、スモールオフィス機能をプラス →個人、グループ学習に対応する →カラーコピー(A3印刷)などができる	
		サービスの高次化	IT化を進める	情報発信型の図書館とする →IoTによるサービスの高次化(Internet of Things) 川崎市視覚障害者情報文化センターの分室機能を持つ	

テーマ	1. 内容		2. 解決の方向	3. こたわりのポイント	4. 実現に向けた方向性	
	鷺沼駅周辺再編整備を踏まえ、駅周辺に求めるもの		求められる機能の内容・空間のあり方	配慮すべき点や、鷺沼駅周辺であることのメリットの活用・課題への対応	今後のプロセス、役割分担など	
2. 鷺沼駅周辺の子ども・子育て機能	①子どもを預けられる場	親にとっての利便性の高さと、子どもにとっての環境を考えた終日保育への対応が必要	・駅チカの利便性の高さを活し、子供の落ち着く環境が確保された保育園・幼稚園	駅の近くに公共の保育園があると通勤の前に通園できて便利		
				親にとっての利便性だけでなく、子供にとっての環境(静かさなど)を確保する		
				→カッパーク鷺沼との動線を確保し、駅前の不利を解消		
				園の質の確保		
				→保育士の不足への対応		
				→受け入れ人数を増やす工夫		
	一時保育等への対応が必要		駅の近くに子どもの一時預かり(保育室・学童保育)	通院、買い物、行政への相談の際に使える駅チカを活かす		
			駅の近くに子どもを遊ばせることのできるスペース・プレイロット	買い物や申請の際に子どもを遊ばせながら休めるスペース・広場		
				屋内でも遊ぶことができる場		
	②子育て支援の場・子育てを相談できる場	現在の子育て支援機能の立地が不便なため、利便性の向上が必要	駅前に保健センター	駅近くの利便性を活かし、楽に足を運べる駅前に設置する		
			駅前に乳幼児が利用できる子育て支援センター			
			駅前にベビースペース(授乳や飲食)	赤ちゃんにストレスがかからない、泣いても大丈夫、ふらっと立ち寄れる場所に設置する		
			子育て中の人が気軽に交流するためのスペースが必要	(子育て中の人が気軽に交流するためのスペース)	現在、非常に不足しており、あっても費用が高い	
			児童館の設置が必要	乳児、幼児、小学生を対象とした児童館	乳児、幼児、小学生によって異なる対応の仕方に応じ、機能分化させる	
③子どもが安心して過ごせる場をつくる機能	多様な人が集まる駅周辺には、子どもを守る機能が必要	青少年指導員(ボランティア等)の配置	商業施設が多く、多様な人が集まる駅チカで、塾帰りなどで中高生が夜遅くに過ごす地域であることから安全性を確保する			
	子どもを支える機能が必要	町内会・自治会と連携した子育て支援等	有名な学区のある宮前区の特성에対応			
④その他の子育て機能	子育て中の自転車に配慮した駐輪場が必要	子供を乗せる幅広の自転車に対応した駐輪場	駐輪場の集約			

テーマ	1. 内容		2. 解決の方向	3. こたわりのポイント	4. 実現に向けた方向性	
	鷺沼駅周辺再編整備を踏まえ、駅周辺に求めるもの		求められる機能の内容・空間のあり方	配慮すべき点や、鷺沼駅周辺であることのメリットの活用・課題への対応	今後のプロセス、役割分担など	
3. 鷺沼駅周辺の行政サービス・相談機能	①利便性の高い行政サービス	利便性向上のため行政サービスのワンストップ化が必要	駅前にワンストップ化された(一つの窓口で足りる)行政サービス機能を設置	IoTなどの技術を使いつつ、鷺沼という便利な場所に転入出・出生等が1つの窓口で完結する行政窓口を駅前に設置する →高齢化に備えてアクセスのいい場所に →コンシェルジュに相談できる窓口があると良い →川崎市ふれあいバス・障害者運賃割引書を発行しやすいテーブル →渋谷や世田谷を参考に駅前でほぼ事足りるような窓口を設置		
		証明書などの書類発行などのIT化による利便性の向上が必要	IoT (Internet of Things)によるサービスの高次化	行政サービス機能は書類発行のみ申請受付もできるように		
		“アクセス性の高さ”に基づいた便利な行政サービス機能の立地を考えることが必要	障がい者や高齢者の方が簡単にいける場所(駅の近く)に行政サービス機能を設置	現区役所は坂の上であり、お年寄りからオミットされている	鷺沼駅前など障害者の方も簡単にいける場所に区役所が必要	
				現区役所の立地が不便、駅までなら行きやすい	鷺沼は急行が留まる→宮前の中心として行政機能を集約→ITを活用し、地域サポート	
				公共交通で行きやすい駅前に区役所・市民館・図書館が欲しい		
				行政サービスの一部移転など	現区役所の活用も必要 鷺沼駅前のサービスコーナーに何が足りないのかを踏まえて検討	
	②行政サービス等について対面で相談できる機能	無人化された窓口ではなく、対面で相談できる窓口の充実が必要	駅前に行政との相談窓口の設置・充実	無人化できるものと、人と人が顔を合わせる必要があるものでの確に対応する 無人化できるものはネットやコンビニで良く、対面で相談できる窓口が必要 利便性の良い駅前で相談できると良い 困りごとがあった場合に無人の窓口だと困る		
			駅前に乳幼児の為の保健所のような場所の設置	駅前で保健師による保健相談ができるといい 保健所機能の充実		
			駅前にまちの総合案内や相談窓口の設置	困ったことを相談できる、コンシェルジュの様な機能		
			③その他鷺沼駅周辺に望む行政サービス・相談機能	宮前区内の分野別インフォメーション・情報検索できる場が必要	駅前に宮前区内の分野別インフォメーションの場の設置	情報検索できるイメージ

テーマ	1. 内容		2. 解決の方向		3. こたわりのポイント		4. 実現に向けた方向性		
	鷺沼駅周辺再編整備をきっかけとして、区全体のまちづくりに求めるもの		求められる機能の内容・空間のあり方		配慮すべき点や、鷺沼駅周辺であることのメリットの活用・課題への対応		今後のプロセス、役割分担など		
4. 区全体のまちづくりと鷺沼駅周辺の再編整備	①駅周辺再編整備をきっかけに区全体のまちづくりを考える	コンパクトシティの考え方が必要	駅等を核に区全体がつながり、バランスのとれたまちづくりを進める		宮前平駅周辺の活性化も考える 分散した計画だとインフラが厳しくなる				
		地区ごとの特性を活かした、区全体としての発展が必要	地域の個性を活かした、宮前区らしさ、ブランド化		緑、桜、農業、植木のまち、文化のまち、教育、スポーツ、歴史、祭り、教育施設の誘致、子どもから高齢者までを対象とした交流や講座 緑のまち 人が好き緑が好きとまちが好き 桜のまち 桜のシーズンに観光バスでお花見ツアー 農業のまち 地産地消のための作物の販売 文化のまち 宮前区は教育レベルが高い さらに力を入れ、人が呼べるようにする しかし、現在子どもが集まりすぎてパンク状態である 歴史のまち 持田考古学研究所などを活用し、宮前区の文化・伝承を知ってもらう				
		自立性の高いまちづくりが必要	区内での各種サービスの充足						
		高齢化や人口減少を踏まえた活力あるまちづくりが必要	高齢者も安心して住めるまち(高齢者ケアの充実)		高齢化が進み、単身者が増えるとペット率が増えるので、ペットと一緒に過ごせるまち(鷺沼駅周辺にはペットを連れていける場所を)				
			外国人も安心して住めるまち		人口減・インバウンドも考えて、海外の人に特化した住むスペース				
			働く場所と住む場所が近いまち		昼間人口をキープする				
		災害に強いまちづくりが必要	公共交通網等、アクセスの充実		区の魅力である聖マリへのアクセスを重視				
			防災対策がしっかりしているまち		助け合い(互助)情報のネットワークが必要 地区における災害時の役割分担 坂が多いので雪が降ると危険 昔は沼だったので地盤が弱いのではないかという懸念がある				
			安全・安心なまちづくりが必要		防犯対策の充実		ガードレールの設置などで幼い子供の命を守る		
		宮前区のまちづくりを考える場が必要	区づくりプラン、分野別の街の将来像を描く		区づくりプランのように、分野別にまちの未来を考える		話し合う場を作る		
その他の取り組み	空き家の活用(シェアオフィス、コミュニティスペース化)、年齢に関係なく集う場づくり(イベント、カフェ)など		交流・おしゃべり・仕事・いろいろな用途で使えるようにする		行政の支援が必要				

テーマ	1. 内容		2. 解決の方向	3. こたわりのポイント	4. 実現に向けた方向性
	鷺沼駅周辺再編整備をきっかけとして、区全体のまちづくりに求めるもの		求められる機能の内容・空間のあり方	配慮すべき点や、鷺沼駅周辺であることのメリットの活用・課題への対応	今後のプロセス、役割分担など
4. 区全体のまちづくりと鷺沼駅周辺の再編整備	②区全体の行政サービスを考える	区内の公共施設の在り方の議論が必要	公共施設の配置に関する合理的な議論・検討	徒歩圏内・駅から近い場所・バス路線の近くに配置する 何を優先すべきか納得できる決め方が必要 中途半端な施設にならないようにする	
		区全体への公平なサービスを提供することが必要	IT等の活用	IT、AI化を進めもっと簡単に手続き・相談ができるように	
			多拠点化、サテライト・エリアターミナル型	地区ごとに拠点をつくり、公共施設を分散配置する 駅をその地区の拠点とする	
			向丘出張所、支所の機能の充実、分庁舎・分館、福祉など相談窓口（常設でなくとも）		
			公共施設へのアクセスの改善（坂道が多いことを踏まえたバス路線の充実、コミュニティバス）	公共施設をめぐるコミュニティバスがあればいい	
			行政サービスのワンストップ化（一か所ですべてのサービスが受けられるようにする）	公共施設が区役所中心に集まるのは避けられないのではないか	
		行政機能全ての移転だけでなく分室・分庁舎の検討が必要	分室・分庁舎を鷺沼駅前につくる	区役所の窓口機能の一部を鷺沼に移転する	同じ機能を2つ作るのはコストがかかるので一部機能だけ移転
				鷺沼に区役所機能があれば便利になるが、ランドマークである必要はなく、分庁舎でいい	
				大和市の中央林間分室や、多治見市の分庁舎レベルの機能があるといい	
				区役所を移転する必要はないが、子どもや文化に関する機能は鷺沼駅前に移転しても良い	
		駅の近くの利便性を活かし、毎日利用する機能が必要	区役所以外の機能を入れる	利便性を考えると、区役所機能ではなく、保育園など毎日する機能を入れたほうがいい	
		施設の質・機能の充実が必要	子どもが過ごせる場	身近なところに土日でも過ごせる場が必要	
			交流の場として老人福祉施設や支所・出張所を一般にも開放	相談・図書コーナーをつくり子どもから高齢者までが交流ボランティアを配置し人間関係の円滑化を図る	
			老朽化対策、学校・公園等の質の充実、管理運営の改善	区内の公共施設全体が老朽化しており、防災の観点から不安	

テーマ	1. 内容		2. 解決の方向	3. こたわりのポイント	4. 実現に向けた方向性
	鷺沼駅周辺再編整備をきっかけとして、区全体のまちづくりに求めるもの		求められる機能の内容・空間のあり方	配慮すべき点や、鷺沼駅周辺であることのメリットの活用・課題への対応	今後のプロセス、役割分担など
	③ ①②を背景として駅周辺再編整備を位置づけ、そのコンセプトを考える	①・②を背景とした宮前区のイメージ・コンセプト	商業施設の充実したまちをつくる コンパクトなまちづくりに向けた一つの核として位置づける 民間の再開発を活かしたまちづくり 鷺沼らしさ(緑、農産物、文化など)の拠点として位置づける	オンリーワンのまちづくり(他との差別化) 駅周辺で多目的に対応できるまち(商業施設の充実した自立性の高いまち、1日過ごせる昼も夜もコミュニケーションにあふれる元気なまち) 老若男女が集えるまち(子育て世帯、共働き世帯、高齢者等の集いと居場所、働く場、学べる場、サテライトオフィスやレンタルスペース) 急行停車駅でみなが来やすい位置条件を活かす。	
4. 区全体のまちづくりと鷺沼駅周辺の再編整備	④仮に移転の場合の現在の区役所等用地(跡地)の活用を考える	仮に移転とした場合の区役所等用地(跡地)のあり方を考える必要がある	分館・多拠点化、ITの活用等による区役所機能、図書館機能の存続 集い・交流の機能(公園、コンサート、スポーツ、自治会活動の場) 防災機能(警察、消防署との連携、給水、避難など) その他(跡地活用への市民意見の反映、民間の活用)	移転した場合でも、現在の機能は残して欲しい 交流のための場としてほしい 既存機能の集積を活かした緊急時のセンター機能(移転しても連携できるように) 移転の場合は現状以上の魅力ある場に	条件を付けた民間活用

テーマ	1. 内容		2. 解決の方向	3. こたわりのポイント	4. 実現に向けた方向性	
	鷺沼駅周辺再編整備を踏まえ、駅周辺に求めるもの		求められる機能の内容・空間のあり方	配慮すべき点や、鷺沼駅周辺であることのメリットの活用・課題への対応	今後のプロセス、役割分担など	
5. 交通・アクセス	①鷺沼駅周辺の交通混雑	鷺沼駅周辺再編整備による交通量の増加に伴い、混雑・渋滞への対策が必要	鷺沼駅周辺道路の整備	道路の拡張整備 環境も同時に整備する		
			混雑・渋滞対策のための交通体系の見直し	一方通行路を考えることでスムーズに移動可能となる 動線の整理が必要 駅までの道路が狭く、バス路線が増えても道路が広がらなければ混雑する		
		混雑の解消や安全性の確保のため、信号や歩道など鷺沼駅周辺の歩行者交通環境の改善が必要	混雑・渋滞の原因となるような信号を無くす・減らす	信号を待ちきれず乱横断する人がいるため、対策が必要 駅の手前でバス乗降客を降車させる 信号機のない交差点とすることで渋滞が緩和する 5叉路となっている信号を4叉路とすることで混雑を解消する		
				歩行者用信号の時間を長くする	歩行者が横断歩道を安全に渡れるようにする	
				歩道を安全に通行できる幅にする	高齢者・子育て世代が安全に通行できるような広い歩行者道路にする	
				交通渋滞対策や利便性、まちのにぎわいに資するため、駐車場・駐輪場の整備が必要	駅周辺の駐車場の整備・台数の確保	車をとめられることで滞留時間が長くなり、まちのにぎわいにつながる バス路線が少ない地域の人の車利用に配慮する 駐車場の不足による路上駐車解消
		駅周辺の駐輪場の整備・台数の確保	定期契約ではなく自転車を置ける場所 電動自転車に対応する			
			②鷺沼駅ロータリーの安全・安心、快適性の確保			鷺沼駅ロータリーの交通円滑化や効率的なスペースの利用が必要
		ロータリーの地下に駐輪場をつくる →コンパクトに空間を有効活用できる				
		ロータリー出入り口をバス・タクシー・一般車で分ける		バス・タクシー・自家用車の出入り口を分離することで交通円滑化につながる 自動車の駐停車専用のスペースを確保する バスターミナルの特化により交通流がきれいに流れるようになる		

テーマ	1. 内容		2. 解決の方向	3. こたわりのポイント	4. 実現に向けた方向性
	鷺沼駅周辺再編整備を踏まえ、駅周辺に求めるもの		求められる機能の内容・空間のあり方	配慮すべき点や、鷺沼駅周辺であることのメリットの活用・課題への対応	今後のプロセス、役割分担など
5. 交通・アクセス	②鷺沼駅ロータリーの安全・安心、快適性の確保	利便性向上のため、バスターミナルの拡大が必要	新たなバス路線を見据えバスターミナルを拡大する	拡張性(新路線)を考え今の予定より広く整備する	
				広すぎるとバスから駅まで歩くのが大変になるのでほどほどコンパクトに整備する	
			わかりやすく、使いやすいバスターミナルに整備する	歩道直結のバスの降車専用停留所が必要	
				バスの乗り場数を分散し、行き先をわかりやすくする	
				巡回に時間のかからない、武蔵小杉の様な箱型ロータリーが良い	
				バスターミナルにドラッグストアや総菜店があるといい	
		安全性や快適性を備えたロータリーの整備が必要	防災性を考えた安全・安心なバスターミナルに整備する	緊急時に人が溢れないよう、広いスペースにする	
				たまプラーザ北側や新百合ヶ丘をモデルとした大型ターミナル	
			災害時にどうなるかを予測し、避難場所・貯水タンクなどを整備する		
	バスの待合室を設置する		待つ人が快適なようにエアコンの効いた待合室の設置		
		椅子・屋根・ベンチなどの設置	トイレやベンチの設置により、少し憩えるような場所にする		
	③バスネットワークの充実による利便性の向上	さまざまな人が使いやすいロータリーにすることが必要	誰もが安全・快適に利用できるように配慮したロータリーの整備	高齢者や障がい者の方に配慮し、タクシー乗り場は駅改札近くに作るなど安全・効率的に利用できるようにする	
				並んでいる人が濡れないようにタクシー乗り場を全天候化する	
				障がい者の方に配慮した自家用車の乗降スペースが必要	
	③バスネットワークの充実による利便性の向上	利便性向上のため、バスネットワークの充実が必要	宮前区全体を考えたバス路線の充実	宮前区全体でつながれるようなバス路線にする	
宮前区の様々な地域にある地域の魅力を活かせるようなバス路線にする					
鷺沼に一極集中してしまうと混雑する					
病院(聖マリアンナ)へ行くバス路線の整備・増便				区内全域から鷺沼に来ることができるバス路線	
				将来の人口減・再編を含め検討する必要がある	
				病院をハブとしたバス便	
				病院など多くの利用者があるところはシャトルバスを出す	
				宮前平と聖マリアンナ医大のバス便の継続・増便	
		鷺沼と聖マリアンナ医大のバス便の増便			

テーマ	1. 内容		2. 解決の方向	3. こたわりのポイント	4. 実現に向けた方向性
	鷺沼駅周辺再編整備を踏まえ、駅周辺に求めるもの		求められる機能の内容・空間のあり方	配慮すべき点や、鷺沼駅周辺であることのメリットの活用・課題への対応	今後のプロセス、役割分担など
5. 交通・アクセス	③バスネットワークの充実による利便性の向上	利便性向上のため、バスネットワークの充実が必要	鷺沼駅周辺再開発を機に、既存のバス路線の見直し	バス路線の根本的な見直し	
				同じ行先で重複しているバス停の見直し	
			田園都市線以外の鉄道につながるバス路線の整備	小田急・JR・東急各路線につながるバス路線の新設	
				現在交通網のない宮前平から新百合ヶ丘へのアクセス向上	
				田園都市線が止まった際の代替交通機関が必要	
			その他バス便・路線増による利便性の向上	横浜市方面へのバス路線新設	
				新たにバス路線を新設するのではなく、車庫までのルート上にバス停をつくる	
				バスのみが通れる道の整備や細い道にもバスを通す	
				市役所へのバスは土日も運行する	
				市民の意見が通りやすい市バスの増加	
		小型バス・コミュニティバスの整備	高齢化によりバス路線が不足しているのでコミュニティバスを整備	コミュニティバスの実現のためには住民の力が必要 税金や民間企業による採算を考える	
			路線バスが通れないような道にコミュニティバスを活用		
	④その他の交通ネットワークの充実	利便性向上のため羽田や成田まで行ける高速バスの停留所が必要	羽田や成田までの高速バスの停留場を整備	鷺沼のみずほ銀行前の道路を利用	
		利便性向上のため既存の路線バスだけに頼らない公共交通が必要	バス地下道の整備	バス地下道をつくる	
			ウーバー(配車サービス)の整備	時間の融通が利く交通手段があると良い	
新たな地下鉄構想の検討			新たな地下鉄構想を考え、ミライへつなげる		
⑤その他	利便性向上のため、市バスや各営業社で共通して使える乗車券がほしい	全営業社で共通した乗車券・定期券の発行	共通して利用できると非常に効率が良くなる		
	鷺沼に交通網が集中するデメリットを考える必要がある	鷺沼ありきでない交通網の検討	鷺沼に集約することで住環境にとってもデメリットがある		
	宮前区を拠点性の高いまちにするため、案内板・窓口の充実が必要	行き先をわかりやすくする案内板・窓口の設置	案内を充実させることで将来、鷺沼など宮前区をより良い、より拠点性の高い町にしたい		

テーマ	1. 内容（問題点・課題）		2. 解決の方向	3. こたわりのポイント	4. 実現に向けた方向性	
6. 検討の進め方	①多様な意見の反映	様々な専門的な見地や、区民の代表による検討が必要	外部委員による検討会を設置する	学識経験者による専門的な見地からの検討を行う 現場に立つ区民代表者も参加し、その知見を活かす 検討結果を公表し、区民の判断材料とする		
		より多くの区民の意見を聴く集会を開催する 区役所に提案箱を置く	より多くの区民の意見を聴く集会を開催する 区役所に提案箱を置く	意見交換会等への参加者（意見を言える人）以外の意見を聴く より多数の区民の意見を聴く 誰でも提案できるようにする 意見したくても時間の無い人の意見を聴く		
		より多くの区民の意見を聴き、反映することが必要	子どもたちの意見を聴く（小、中、高、大）	子どもたちによるワークショップ 学校の授業・ホームルームでディベート・議論する PTAや子供会を活用し意見を聴く 子どもたちを対象としたアンケートを実施する		
			障害のある方とその家族の意見を聴く			
			町内会から出されている意見書を公表する	町内会から出されている意見書を活用する		
		事業内容を踏まえた議論が必要	事業内容の情報を公表する 事業者と連携した検討の場を設ける	事業者のビジョンを知りたい 事業内容を踏まえた検討を行う 事業者ができることは事業者で行う 事業者と市民で前向きなビジョンを話し合う 事業者と市長で前向きなビジョンを話し合う		
		検討、結果の反映のプロセスを踏まえた議論が必要	検討・結果のプロセス（どのような道筋でどのように反映されるのか）について情報公開する	誰が、いつ、どのように検討するのかを明らかにする 検討結果がどのように反映されるのかを明らかにする 民間の開発にどれだけ検討結果が反映できるのかを明らかにする		
		効果的な情報提供が必要（必要な情報がうまく伝えられていない）	IT（ツイッター、FB）を活用する デジタルサイネージの活用 市政だよりの活用 シニアへの情報提供を工夫する	市のブランド戦略室の公式ツイッターの活用 宮前区まちづくり協議会、宮前まち倶楽部のFBの活用 区の版に毎回、意見交換会などの内容を掲載する 広報の簡易化（膨大な情報が苦手なシニアに伝わるようにする）		
		③適切なスケジュールでの検討	検討の期間が短い	十分な検討期間を確保する	区民意見を適切に反映できるようなスケジュールとする 必要な期限の中で、できるだけ多くの人が納得する結論になるように	